

学部名	社会科学部	学科名	スポーツ社会学科
-----	-------	-----	----------

スポーツ社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	社会学の基礎を学び、社会におけるスポーツの意義やあり方を理解した上で、人々の健康や生活の向上に役立つスポーツや健康に関する専門的な知識と技能を修得し、色々なスポーツや健康に関わる分野の指導者や運営者として社会に貢献することができる。
DP2	思考・判断	社会情勢や他者の状況を、論理的・客観的に見極め、その結果に応じた取り組み方を模索し構築できる思考・判断能力を持っている。
DP3	技術・行動	教育者、スポーツ指導者、健康指導者に必要な指導技術を習得し、それらの指導現場に不可欠である望ましい対人関係を築ける能力や指導に必要なコミュニケーション能力を持っている。
DP4	態度	社会や組織の一員として、協調性を持ち、主体的に問題発見や解決に取り組み、他者に対しても公平かつ好意的に接することができる指導者・教育者としての資質を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	2	1	この科目の到達目標として、受講生は、本学の所在地である備中高梁という場所が地域文化圏「吉備の国」としてどのような文化的・歴史的特色があるのかを十分に理解し、さらに、世界の文化や社会の多様性を学ぶことによって国際人となるための基礎を身につける。 毎回異なる講師によるオムニバス形式によって実施される。備中高梁(吉備の国)の自然環境、歴史、精神風土についての基礎知識を学ぶ。さらに、日本と世界とのつながりについてグローバル化の意味とその影響に注目しつつ、世界各地の社会・文化事情の解説を通じて、ローカルな日常世界とグローバルな国際社会との関係を考え、多文化共生の基本的な意義と課題について理解する。	◎			
		地域学概論	2	1	地域の諸問題については、高梁市の各部局より講師を招き高梁市の現状と今後の問題点を教授して貰うとともにグループ討議を行い、積極的に問題解決能力を養う。 また、地域でボランティアを行っている学生より体験談を聞き今後の地域社会への貢献について考える。	○	◎		
		地域貢献ボランティア	2	2	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアをおこなう。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学んだのち、地域から要請を受けたボランティア活動を10コマ分(20時間以上)行なう。ボランティア活動は、ボランティア活動予定表(5月～1月末まで)から活動時間合計が20時間以上になるよう選択し、活動をおこなう。その後、ボランティア活動報告書(1,000字以上)を作成し、グループに分かれ発表を行う。		○	◎	
	キャリア教育科目	キャリア開発Ⅰ	2	1	大テーマ: 大学生生活になれる、学びの習慣をつける 到達点: 生活リズムができ、落ち着いて学べる環境をつくること。教員や先輩、留学生、同期入学生とのコミュニケーションはとれるようになること。	◎	○		◎
		キャリア開発Ⅱ	2	3	自己の職業適性を発見する力・業界職種等を分析する力を身につけ、自分に適した職業進路を具体的に選択する。また、就活実践のために具体的な能力を訓練し発揮できるようにする。そのため、一般社会で身につけておくべき自主性や責任感、社会人としての一般常識や教養、分別、協調性や能力を再確認し実質的なものにする。			◎	
	情報教育科目	情報処理Ⅰ	2	1	高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で大学生に必要とされる必要最低限のコンピュータスキルを身につけさせることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように指導し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得させる。 本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	◎		○	
		情報処理Ⅱ	2	1	コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフトおよびネットワークの基礎概念や社会情報学の基礎、セキュリティ保護の考え方等、いわゆるリベラルアーツとしての現代のコンピューターリテラシーを理解させることを到達目標とする。 情報処理Ⅱにより情報処理の基礎やオフィスアプリケーション操作を一通り理解した学生が、さらにコンピュータを活用した社会に適応する上で必要な概念と関連技術・用語について理解を深めるためのものである。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。	◎		○	
	言語教育科目	英語Ⅰ	2	1	この授業では高校までの主な文法事項は確実に理解でき、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。実力を今一度強固なものにするために文法的な復習、単語なども確認しますが、それと同時に聞き取りの実力、クラスによってはシャドーウィングなどを取り入れ、読むには実力的に問題なくても話せる力に近づけるよう指導します。そうすることで高校の英語とは一つランクが上の実力をつけるようにします。予習、復習を義務づけ実力がついたと実感できる程度に自分なりの意識を持ちながら授業に臨んでいただきたいと思っています。				◎
		英語Ⅱ	2	1	この授業では英語もさることながら内容にも目を向けて大学生としてどのようなことに今後取り組んでいかなければならないのかを英語を通して考えていてもらいたいと思います。前期同様に高校までの主な文法事項は確実に理解出来、それに付け加えて簡単な日常表現の英文を母国語に近いニュアンスで使えるようになるよう指導します。内容は健康問題から温暖化問題など、新聞やテレビでも扱われている内容が多く興味を湧かせると思います。是非ともニュースには常に関心を払っておいで下さい。授業内容の理解の手助けになると思います。				◎
英語Ⅲ		2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。				◎	

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	英語Ⅳ	2	2	これまでに学んだ英語の基礎を定着させながら、さらに多くの重要表現を身につける。まとまった量の英文の内容を正確に理解できることを目指し、長い文章が音読で理解できるようにする。				◎
		フランス語Ⅰ	2	1	「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」をテーマとし、大学で始めて第二外国語としてフランス語を学ぶ学生が、初歩的なコミュニケーション技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ。日常的によく使われるフランス語の例文を覚えて話せるようになることを目標とする。				◎
		フランス語Ⅱ	2	1	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(基礎編)。フランス語を学び始めて半年経った学生が、半年後に「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルに到達するために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。				◎
		フランス語Ⅲ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前編)。フランス語技能検定5級を受験することができるレベルを到達目標とする。				◎
		フランス語Ⅳ	2	2	フランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・後編)。「実用フランス語技能検定5級」を受験できるレベルが到達目標である。そのために、日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、読み、聞き、話すことができるようにする。				◎
		ドイツ語Ⅰ	2	1	ドイツ語の単語と文を正しく発音するためのルールを知り、動詞や名詞を中心にした基礎的な文法を学習する。そのことによって「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話に必要な語彙と文を、読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)Ⅴ5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な第一歩となっている。				◎
		ドイツ語Ⅱ	2	1	日常的な会話表現に触れながら、ドイツ語の基礎的な文法事項についての学習と理解をさらに深める。そのことによって「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、平易な日常会話での様々な応答表現が読んだり聞き取ったりできるようになる。なお、ドイツ語の授業は、2年間の学習後には「ドイツ語検定(独検)Ⅴ5級に挑戦できるレベルに達することを目標としており、1年次の授業はそのための重要な一歩となっている。				◎
		ドイツ語Ⅲ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める				◎
		ドイツ語Ⅳ	2	2	テーマ:ドイツの社会・言語・文化を多面的に学ぶ 到達目標:「動詞句・名詞句・副詞句」を理解して、コミュニケーションのためのドイツ語能力の基礎を固める				◎
		中国語Ⅰ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(入門編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅰでは、初めて中国語を学ぶ学生諸君を対象に、聞く・話す・読む・書くといった、総合的な中国語力の基礎づくりを目標とする。まず発音を完全にマスターすることを旨とする。その後、発音の練習と並行して、初級文法、簡単な日常会話、応用のきく文型などを習得する。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。				◎
		中国語Ⅱ	2	1	中国語によるコミュニケーション技能の習得(基礎編)。中国語を約2年間学んだ学生が2年次秋期の3月に「中国語検定試験」準4級を受験できるレベルに到達するために段階的に到達目標を設定している。 中国語Ⅱでは、前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことを目標とする。 本講義のラーニングアウトカムズは「コミュニケーション・スキル」と「多文化・異文化理解」である。				◎
		中国語Ⅲ	2	2	中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を指導(検定試験対応・前編)する。中国語検定試験準4級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準4級に挑戦することができるようになる。				◎
		中国語Ⅳ	2	2	会話を中心とした日常レベルの中国語を発音したり聞き取ったりできるようになる。				◎
		日本語Ⅰ春	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。				◎
		日本語Ⅰ秋	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。				◎
日本語Ⅱ春	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。				◎		

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合A群	言語教育科目	日本語Ⅱ秋	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。				◎
		応用日本語Ⅰ春	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。				◎
		応用日本語Ⅰ秋	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。				◎
		応用日本語Ⅱ春	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。				◎
		応用日本語Ⅱ秋	2	2	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義ではとりわけN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。				◎
		日本語研究Ⅰ春	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。				◎
		日本語研究Ⅰ秋	2	1	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。「日本語能力試験」N2程度以上の実力を確実に修得することを目標とする。				◎
		日本語研究Ⅱ春	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。				◎
		日本語研究Ⅱ秋	2	2	これから始まる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。具体的には、他の日本語科目と連携しながら「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努める。学生は、ラーニングサポートセンターの日本語講座を利用しながら実力の涵養に努めて欲しい。履修時にプレースメントテストを実施し習熟度別(初級・中級・上級)クラス編成を行う。初級クラスは「日本語能力試験」2級程度以上の実力を確実に修得し、中級クラスは同試験の1級取得を目標とする。上級クラスは、更なる実力の向上を図る。				◎
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	2	1~4	大学生、あるいは社会人として必要とされるであろう日本語の基本的な運用能力の獲得を、この授業の主要なテーマとする。日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学習することにより、確実な日本語基礎力を身につけることが出来る。また、この授業の中では日本人のための「日本語検定」を紹介しており、受検に対しての指導も合わせて行う予定である。				◎
		文学への招待	2	1~4	本講義では、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことを目的とする。さらに、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすものである。		◎		
		美術の見方	2	1~4	美術作品の見方について考え、一人ひとりが美術の見方を身につけることを目的とする。美術作品の「見方」といっても2つの考え方があり、1つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、2つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。ここでは、2つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行い、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになる。		◎		
		音楽の楽しみ	2	1~4	テーマは「音楽とは何か」。人類は、なぜ音楽を創り出し、そして継承してきた。現在音楽は、生活の様々な場面まで深く浸透している。しかし、冒頭の問いに直ちに的確に答えることはできない。本講座では、人と音楽との関係、音楽そのものについて考察し、冒頭の問いに対して自分なりに回答できるようになる。		◎		
		生涯スポーツ論	2	1~4	スポーツ・運動の基本的内容を理解し、実生活で活用できることを到達目標とする。	○		◎	
		生涯スポーツ実習	1	1~4	生涯スポーツ実習を通して、スポーツの楽しさを理解し、好きになってもらう。スポーツの楽しさである、人と関わる楽しさ、極める楽しさ、協力する楽しさ、創意工夫する楽しさ、考える楽しさ、勝敗の楽しさを理解することができる。 近年、社会環境の変化による、外遊びの減少、運動経験不足、基礎運動能力の低下が挙げられる。自分自身の体を自由自在に動かすことができるように、全身のコーディネーションと体幹の安定化を高める事ができる。全身持久力を高める事ができるようにボールを使った球技の中で、たくさんのボールにさわって、たくさんプレーすることによって高めることができる。		○	◎	○

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	世界認識・自己理解	哲学	2	1~4	哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの、極めて重要な知的伝統である。講義では、この知的伝統をたどりつつ、世界と自分について、自分の頭で考えることを目指す。	○	◎		
		宗教学	2	1~4	世界の歴史の中でどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知ること。	○	◎		
		倫理学	2	1~4	我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位に自分固有のよき人生への指針を与えることが目標である。	○	◎		
		心理学	2	1~4	心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。	○	◎		
		多文化理解	2	1~4	テーマ: 本講では、文化人類学的視点に基づいて伝統的社会から近代的産業社会までの様々な人間集団の文化(生活様式、社会制度・習慣など)を比較・考察する。そうすることにより、「文化の多様性」を通して人間とは何かをより広い角度から理解する。 到達目標: 様々な社会や民族に見られる異なった、独自の生活様式や思考様式、すなわち「文化」を価値判断抜きに比較、考察、理解することができる。またそうすることにより、広い視野と寛容性を身につけることができる。	○	◎		
	社会と制度	日本国憲法	2	1~4	<テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。 「人権」について理解を深める。 <到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	○	◎		
		民法	2	1~4	民法は、皆さんが社会生活をする上でのトラブルを解決するルールを定めていますので、民法を学習することにより、社会生活に役立つ実用的な知識が身に付きます。また、公務員試験や資格試験などの多くに試験科目として採用されていますので、これらの試験を目指す人にとっては、必修の科目といえます。したがって、この授業では、次のステップとしての公務員試験や資格試験の勉強に円滑に移行できることも念頭に置いて、民法の基礎を理解し記憶することを目標とします。	○	◎		
		経済学	2	1~4	経済学を学ぶもっとも重要な理由は、自分が暮らしている世界を理解するのに役立つということである。日常生活で目にするさまざまな経済的現象に関する分析的思考を修得する。とりわけ我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には市場における消費者や企業といった経済主体の経済活動の背後論理を理解し、価格メカニズム、豊かさの意味合いと国民所得、経済成長および経済政策などと実生活とのかかわり合いについて理解を深めることができる。	○	◎		
		社会学	2	1~4	本講義の到達目標としての掲げる中心的テーマは以下のようである。 ①社会学に関する、基礎的な考え方・見方を身につける。 ②人の生活や一生について、社会学的な視点から理解を深める。 ③身の回りの出来事を、社会学的な視点から分析できるようにする。	○	◎		
		人権と政治	2	1~4	●授業の到達目標及びテーマ:世界レベルで問題となっている、様々な「人権」について、標準的な知識を身につけることを目標とする。	○	◎		
		社会と統計	2	1~4	●統計学の基本的な考え方を実例を見ながら習得すること。 ●実際に応用分析ができるようになることをめざす。	○	◎		
	自然と数理	環境科学	2	1~4	環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等の生命と環境についての基礎的な知識を修得し、近未来に人類が直面すると予想されている様々な環境問題、世界規模で流行が懸念される感染症などを取り上げ、それらへ対応するための知識修得を行う。	○	◎		
		物理学	2	1~4	物理の基礎。簡単な計算ができること。計算を通じて考えられること。物理的な見方ができるようになること。		◎		
		生物学	2	1~4	[テーマ]: 最近の生物学関係の進歩はめざましいものがある。それらを少しでも理解できるよう、生物について、人間について、分子、細胞、組織、構造、進化など様々なレベルで基本的理解を深め、医学、環境問題などの生物学的現象についての理解力・思考力を身につける。受講することにより、新たな知識を丸暗記するのではなく、過去の知識と関連づけながら理解し思考する習慣を少しでも身につける。 [到達目標]: 人間は生物であることを再認識する。人間は様々な生物の世界がなければ生きていけないことを理解する。生物は生きていくために栄養が必要であることを理解する。生物は進化してきたことを理解する。進化とはどのような現象でどのように起こるのかを理解する。生物学は科学の一つであること、科学とはどのような学問であるかを理解する。原核生物と真核生物の違いが分かる。ウイルスと、生物との違い、細菌との違い、が分かる。細菌と真核単細胞生物とが区別できる。病原体には、ウイルス、細菌、原生生物などがあることがわかる。人間の免疫とはどのようなものであるかおおよそわかる。真核多細胞生物は動物と植物と菌類であることが分かる。有性生殖と無性生殖の違いが分かる。多細胞動物の体が、体細胞と生殖細胞からできていることを理解する。遺伝子と染色体との関係が理解できる。遺伝子を構成する物質がDNAであることが分かる。同じ両親から生まれる兄弟は、約70兆以上の遺伝子の組み合わせから生まれることを理解する。双生児の1卵性と2卵性の違いを理解する。		◎		

授業科目	授業科目	授業科目	単位数	配当年次	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合B群	自然と数理	化学	2	1~4	本講義では基礎的な化学知識の学習に重点におき、また日用品、生活に必要な薬品化学や界面化学分野の項目も取り上げ、将来の職業にも役立つ知識の修得を目指したい。		◎		
		人類生態学	2	1~4	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができる。	◎			
		統計学	2	1~4	統計学の基礎概念を、実例を通じて習得し、将来の応用を旨とする。		◎		
		数学	2	1~4	医療系の学習を進める上で将来必要となる数学的知識の習得		◎		
		総合C群		1~4	入学した学科で学ぶ専門領域以外に様々な分野や世界、価値観があることを知り、また理解することを目的としている。社会人となったとき幅広い知識を身につけるために他領域について「個々をやや深く」学ぶ。		◎		

学部名	社会科学部	学科名	スポーツ社会学科
-----	-------	-----	----------

スポーツ社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

DP1	知識・理解	社会学の基礎を学び、社会におけるスポーツの意義やあり方を理解した上で、人々の健康や生活の向上に役立つスポーツや健康に関する専門的な知識と技能を修得し、色々なスポーツや健康に関わる分野の指導者や運営者として社会に貢献することができる。
DP2	思考・判断	社会情勢や他者の状況を、論理的・客観的に見極め、その結果に応じた取り組み方を模索し構築できる思考・判断能力を持っている。
DP3	技術・行動	教育者、スポーツ指導者、健康指導者に必要な指導技術を習得し、それらの指導現場に不可欠である望ましい対人関係を築ける能力や指導に必要なコミュニケーション能力を持っている。
DP4	態度	社会や組織の一員として、協調性を持ち、主体的に問題発見や解決に取り組み、他者に対しても公平かつ好意的に接することができる指導者・教育者としての資質を持っている。

※学科のDP達成のために、特に必要な事項◎、重要な事項○、望ましい事項△

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
スポーツ経営学	2	1	春	現在の日本においてスポーツは、国民の生活の中に入り込み、なくてはならないものに位置づけられている。誰もがいつでも手軽に自分の好みのスポーツをしたり、好きなスポーツチームの試合を観戦し、応援できる為には、様々な形に組織化されて管理運営されている概要を理解する必要がある。	◎	○		
スポーツビジネス論	2	3	秋	スポーツビジネスの具体的な手法をテーマに、スポーツビジネススキルに関する基礎的知識を習得し、現実のスポーツビジネス場面で活用できる資質を養うことを目標とする。	○	○	◎	◎
スポーツリーダーシップ論	2	2	秋	スポーツにおけるリーダーシップをテーマにスポーツ集団組織における効果的なリーダーシップのあり方についての基礎知識の習得を目標とする。		◎		○
スポーツマネジメント論	2	3	春	現代社会においてスポーツは単なる身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めていく。その過程で社会の様々な領域からの期待値も高まり、社会の発展と維持のため積極的にスポーツのアウトプットを還元していかなければならない。スポーツマネジメントの基礎的知識を習得するとともに、スポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントが行なえる方法論の習得及び基本的技能の習得を目標とする。	○	○	◎	◎
社会スポーツ概論	2	1	秋	「社会スポーツの概念」及び「社会制度としての社会スポーツの実態」をテーマとし、それらについて地域のスポーツ指導者になるために必要な知識を習得する。	◎	○	○	○
体育・スポーツ行政論	2	2	春	「体育・スポーツ」と「行政」の関わり及びスポーツ振興における行政の役割をテーマに、将来スポーツ指導者として、体育・スポーツ行政に関する基礎的知識を習得することを目的とする。	◎	○	○	○
スポーツボランティア実習	2	2	春	「審判(レフェリー)」「運営(マネジメント)」等スポーツに関わるボランティアを行なうことにより、スポーツを支えることの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的技術や思考力の向上をさせる。また、スポーツ少年団、クラブチーム、中学・高校運動部等でスポーツ指導を行なうことにより、スポーツコーチングの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしぐみ、対象者の特性を理解し、専門的技術や思考力の向上を目的とする。	○	○	◎	◎
ゲームプランニング論	2	2	秋	サッカーの競技力向上のためにはゲームから課題を抽出し、次のゲームに向けてのトレーニングに課題を反映させ、次のゲームに生かすことが大切である。よりレベルアップしたゲームをするためにゲーム分析、トレーニングのプランニング、トレーニング&コーチング、ゲームの準備、ゲームプランニングまでの一連の流れを学習し、自身の競技力、指導力向上につなげる。	○	○	○	◎
サッカーレフェリーライセンス	2	1	春	サッカーの競技規則を正確に理解し、選手(プレイヤー)としても審判員(レフェリー)としても、実践できることを目標とする。審判員資格未取得者は、受講することにより日本サッカー協会公認4級審判員を取得するとともに、日本サッカー協会公認3・4級取得者は、該当年度の更新講習会を免除される。	○	○	◎	◎
基礎コーチング論	2	1	春	【目標】 心理的な暗黙の制限である「条件付け」を解放していくコーチング方法を学んでいく事ができる。 【テーマ】 欲望－モチベーションの起源 潜在能力－自分の能力に目覚めること 自分自身の目標 目標とは何か 目標と夢 目標のタイプ 目標の設定 目標とビジュアライズとは？ アフターメーションとは何か？ 内面的な心構えとコーチング	○	○	◎	◎
応用コーチング論	2	1	秋	【テーマ】 パーソナルリーダーシップとは何か？ リーダーの心構え① 内面的モチベーションが下がっている社会 外的モチベーションとは何か？ 条件付けを解放する 内面的モチベーションの開発とコーチング オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの理解と実践 5W1Hのオープンクエスチョン 【目標】 社会心理環境下にある条件付けをいかにリーダーのコーチングによって解放するかについて理解できる。コーチングとは自発的な内的モチベーションの開発であり、内的モチベーションについて理解できる。5W1Hのオープンクエスチョンのスキルを実践することができる。	○	○	◎	◎
スポーツ心理学	2	2	春	スポーツの心理的効用や、心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広く系統的に取り上げ解説する。		△	◎	○
サッカーコーチング論	2	2	春	【目的】 ・JFAの理念「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」に寄与できる人材を育成する。 ・吉備国際大学から世界で通用する指導者の心構えを持った人材を育成する。 【目標】 ・パーソナルリーダーシップについて学ぶ事ができる。 ・日本サッカー協会公認C級コーチライセンス以上を目指す。 【テーマ】 ・世界の一流の指導者の資質について学ぶ事ができる ・指導者の哲学について学ぶ事ができる。 ・サッカーの発育発達と一貫指導について学ぶ事ができる。 ・サッカーの分析法について学ぶ事ができる。 ・サッカーのプランニング論について学ぶ事ができる。 ・サッカーのコーチング法について学ぶ事ができる。 ・サッカー心理学について学ぶ事ができる。	○	○	◎	◎

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	
スポーツマネジメント・コーチ	サッカーコーチング実習	2	2	秋	1.指導者の役割を理解することができる 2.コーチングについて学ぶことができる 3.ゲーム分析について理解することができる 4.プランニングについて理解することができる 5.女子サッカーのゲーム分析を理解することができる 6.女子サッカーのプランニングを理解することができる 7.少年・少女サッカーのゲーム分析を理解することができる 8.少年・少女サッカーのプランニングを理解することができる 9.ジュニアユース年代のゲーム分析を理解することができる 10.ジュニアユース年代のプランニングを理解することができる 11.ユース年代のゲーム分析を理解することができる 12.ユース年代のプランニングを理解することができる 13.大学年代のゲーム分析を理解することができる 14.大学年代のプランニングを理解することができる 15.サッカーコーチングについての振り返りによる整理することができる	○	○	◎	◎
	C級コーチライセンス	2	3	春～秋	C級コーチライセンスは日本サッカー協会公認の指導者ライセンスである。サッカーの基本(主な対象は12歳以下)を指導することができる指導者を養成し、指導者ライセンスの取得を目的とする。		○	◎	△
	D級コーチライセンス	2	3	春～秋	C級コーチライセンスは日本サッカー協会公認の指導者ライセンスである。サッカーの基本(主な対象は12歳以下)を指導することができる指導者を養成し、指導者ライセンスの取得を目的とする。		○	◎	△
	トレーニング論	2	2	秋	『スポーツの指導者として、『スポーツ全般を対象にして、トレーニングの原則について学習する。』をテーマとし、指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。トレーニング実施に必要な解剖・生理学的原則などに立脚しつつ、バイオメカニクス的な理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。トップアスリートを含めたアスリートのトレーニングから、健康づくりを目的としたトレーニングまで、指導方法論などが理解できるようにすることを到達目標とする。』 『健康維持増進・介護予防そしてスポーツ競技力向上など』をテーマとし、筋力トレーニング・ストレッチングを中心としたトレーニングが広く行われている。健康運動実践指導者及び健康運動指導士として必要な、これらのトレーニング実技を専門的なレベルで習得する。加えて、近年特に唱導され必要性が高まってきている、ポスターワークであり心身のリラクゼーション法として、ゆる体操及びゆるトレーニングを実習し、健康維持増進はもとより、心身のコンディショニングさらにスポーツ競技力向上に理解できるようにする。	○	○	◎	◎
	トレーニング実習	1	2	秋	『健康維持増進・介護予防そしてスポーツ競技力向上など』をテーマとし、筋力トレーニング・ストレッチングを中心としたトレーニングが広く行われている。健康運動実践指導者及び健康運動指導士として必要な、これらのトレーニング実技を専門的なレベルで習得する。加えて、近年特に唱導され必要性が高まってきている、ポスターワークであり心身のリラクゼーション法として、ゆる体操及びゆるトレーニングを実習し、健康維持増進はもとより、心身のコンディショニングさらにスポーツ競技力向上に理解できるようにする。	○	○	◎	◎
健康スポーツ	体力学	2	2	春	体力を幅広くとらえ、健康に関連した体力の概念を主として、その内容・構造を理解する。運動処方法の基礎として、体力の構成要素について専門的に学び、健康と体力ひいては運動の必要性が理論的に理解できるようにする。	○	△	◎	
	体力学演習Ⅰ	2	2	秋	メディカルチェックの意義と内容、体力の測定方法や健康調査について、その理論と実際を学習する。身体活動度の評価方法と身体組成の評価方法学習する。そして、的確にかつ楽しく、運動実技が指導できるようにする。		○	◎	△
	体力学演習Ⅱ	2	2	秋	体力の測定方法について、その理論と実際を学習する。実験室的な測定から、フィールドでの測定、質問紙による調査など、測定条件や目的に応じた測定方法を学習する。さらに、中高齢者に特化した策定・評価方法を学習する。そして、対象者に適合した体力の評価ができるようになる。		○	◎	△
	運動処方	2	3	春	「現場で役に立つ運動処方」をテーマとする。運動処方理論だけではなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解する。	◎	○	○	△
	運動処方演習Ⅰ	2	3	春	神経・筋系の作業能力(筋力・柔軟性)を向上させるための運動プログラムを作成した上で、各種運動器具を用いて行う運動、あるいは特別な器具を用いることなく行う運動のプログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになる。		○	◎	△
	運動処方演習Ⅱ	2	3	秋	呼吸・循環器系の作業能力を向上させるための運動プログラムを作成した上で、目的に応じた運動プログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになる。		○	◎	△
	スポーツ医学Ⅰ	2	3	春集中	スポーツ医学のもと側面を生理学、整形外科学、内科学等の観点から理解し、スポーツ医学の重要性を理解する。スポーツ時に起こりやすい外傷や障害を理解し、それぞれの応急処置について学ぶことができる。	◎		○	
	スポーツ医学Ⅱ	2	3	秋集中	運動負荷試験の基礎として検査の目的、手順、方法および判定について理解する。実践を通して、エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行うことができるようになる。	◎		○	
	応用スポーツ論	2	3	春	運動プログラム作成をテーマとする。運動プログラム作成の基本的な知識と理論を理解することで、一般の運動処方ならびに内科的疾患を持っている方への運動処方の基礎を学ぶことができる。	◎			
	応用スポーツ実習	1	3	秋	運動プログラムの基礎および応用について実践を通して理解する。個人(対象者)に応じた運動プログラムの作成およびその実践力を身につけることができる。	◎			
	健康運動実習Ⅰ	1	3	春	有酸素運動のひとつである「エアロビック・ダンスエクササイズ」の特性を理解した上で、エアロビック・ダンスエクササイズの基本的な技術を習得する。適切な運動強度の設定と運動強度の把握のしかたを知り、指導上の注意点を理解して、基本的なエアロビック・ダンスエクササイズの指導が出来るよう、指導力を習得する。		○	◎	○
	健康運動実習Ⅱ	1	2	秋	「水中環境における健康づくり」をテーマとし、自らが考え、行動できるレベルを到達目標とする。	◎	○	◎	○
	健康運動現場実習	2	3	秋	習得してきた専門的能力を、実際の現場で生かせるために、専門職者としての実務能力や指導力を養成する。また、各自のそれまでの学習で、不足している内容を把握し、今後の指導力養成の糧とする。		○	◎	◎
	運動療法	2	4	春	「運動療法の理論と実際」をテーマとする。運動療法の理論だけではなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解できる。	◎	○		
老年体力学	2	4	春	加齢に伴う心身の変化と身体活動は、密接に関連する。身体活動の低下は、日常生活の不具合を引き起こす。その予防・改善の為に高齢者の体力について理解することができる。	○		◎		
健康心理学	2	2	秋	人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討するのがテーマである。これらについて、6割の理解を到達目標とする。		◎	○	○	
運動生理学演習Ⅰ	2	3	春	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。そのことが、将来の実践的運動指導等ができる能力を身につけることとなる。	◎	○			
運動生理学演習Ⅱ	2	3	春	運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。そのことが、将来の実践的運動指導等ができる能力を身につけることとなる。	◎	○			
総合	スポーツ社会学	2	1	春	スポーツの社会的理解をテーマに、人間社会で生起する様々なスポーツ現象を社会学的視点から論理的に分析できる能力を養うことを目標とする。	◎		◎	◎
	健康社会学	2	1	春	健康の社会的意義を理解する。健康と社会の理想的なあり方について考える。社会と健康との関係性について理解することで、日常生活および将来にわたっての健康に対する考え方を学ぶことができる。	◎			○
	スポーツ哲学	2	1	春集中	体育やスポーツという複合的現象を批判的に分析、検討できるように、「体育・スポーツの本質」について理解する。	○	○	○	◎

授業科目	単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
スポーツ史	2	1	秋	体育やスポーツの歴史について理解することによって、今後の体育・スポーツの方向性を考えることができる。	○	○	○	◎
スポーツ実習Ⅰ(体操)	1	1	春	高度産業化社会の出現に伴い、人間をとりまく環境が急激に文明化した結果、生活における身体活動の総量が急激に低下し、人間が本来持っていた身体機能の低下や基本的運動感覚の鈍化が、主に先進諸国で社会問題となりつつある。これら基本的人間の動きはまた、スポーツを成り立たせる基本動作でもあるため、これら基本的動きの習得なくしてはスポーツ活動もまた成立しないといえる。		○	◎	
スポーツ実習Ⅱ(器械運動)	1	1	秋	「器械体操の楽しさを知る！」をテーマに、器械体操の基本となる運動をにつけ、幼児・児童の指導ができるレベルを目標とします。		○	◎	
スポーツ実習Ⅲ(屋外球技)	1	1	秋	「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つことをテーマに、基本技術の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに将来、それぞれの競技の指導方法を身につけることを到達目標とする。	◎	◎	◎	◎
スポーツ実習Ⅳ(陸上競技)	1	3		本講義では、陸上競技の競技特性、歴史等の理解を深めるとともに、陸上競技を通して体力を高める方法、陸上競技の基本的な技術を修得し、適切な練習計画を作成し、練習をすることで自身の体力及び競技力の向上を図る。また自身の競技能力の向上のための練習を通じて、練習・競技会の安全な実施のための方法の理解、指導法の修得を目指す。	◎	◎	◎	◎
スポーツ実習Ⅴ(屋内球技)	1	3	秋	高等学校までに習得した内容を復習するとともに、屋内球技の中でも特にバレーボールやバスケットボールなどの専門的な技術や知識を身につけ、実践できるようになる。学生は選手としての知識や技能だけでなく、指導者として運動学的な知見を考慮した指導方法を考え、実践できるようにする。	◎	◎	◎	◎
スポーツ実習Ⅵ(格技)	1	2	秋	授業の到達目標、格闘技(特に剣道)の基本的技術を身につける。基本的技術を身につけるだけではなく、ルール、指導方法、審判方法なども習得することを目標に行う。			◎	
スポーツ実習Ⅶ(ダンス)	1	2	秋	授業の到達目標として、ダンスの基本的技術と指導方法を身につける。「創作ダンス」創作ダンスについて、指導計画の作成方法や多様なテーマと題材や動き、表現したいテーマや題材についての動きなど、計画に基づいた指導できるようになる。		○	◎	
運動学	2	2	集中	「運動分析から運動指導」「基礎的技術のメカニズムの理解とその習得」をテーマとして、講義と演習を通じて、運動学(運動方法学)の基礎的知識の習得と自己の運動技能を向上させる方法を習得するとともに、それぞれの運動についての知識レベルを都道府県教員採用試験に出題される問題に対応できるレベルにすることを到達目標とする。		○	◎	
運動方法学	2	1	春	この授業は、指導者の目線でスポーツ全般をとおえていくことを目的とする。コーチング法を理解し、指導の留意点、とくに育成年代の指導において、生理学的知識を踏まえながら、実際の現場で指導を行えることを目的とする。	△	○	◎	○
学校保健	2	3	春	学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義・目的や教育システムにおける位置づけを理解する。学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、児童・生徒教職員の健康管理のあり方等を学習する。	◎		○	
衛生・公衆衛生	2	2	秋	病気になったときは、治療が必要で、そのための医学が臨床医学である。しかし、病気にかかってから治療するより、予防ができればその方がよいことは当然だし、健康増進ができればさらに望ましい。そのために行われる活動が公衆衛生活動であり、その基礎理論が公衆衛生学で、基礎医学や臨床医学を利用する「応用医学」の側面を持っている。また、臨床医学とは異なって個々の患者ではなく、集団を対象とし、しかもその多くは健康人である。その意味では、リハビリテーションの対極にあるといってもよい。しかし、地域リハビリテーション等に関する地域住民へのアプローチなどは、共通点も多い。そのための「Public Health Mind」を身につけてもらうことが目標である。	◎		○	
幼児体育	2	3	春	スポーツライセンスのうち日本体育協会ジュニアスポーツ指導員受験資格取得のために必要なカリキュラムを実施する。今日、幼少期においても運動不足、コミュニケーション不足が危惧されているため、スポーツの果たす役割が大きいことから政府はいろいろなスポーツ振興策を進めている。また、この時期は感覚器官及び脳神経系の発達が著しいため、生涯にわたる健康の獲得とスポーツ実践の基礎はこの時期の良い運動習慣により培われる。優れた運動感覚の習得は諸スポーツ活動にスムーズに入るための基礎であり、また、生涯を健康に生活していくための基礎でもある。しかし、幼少期の身体発達は骨格系・筋肉系・内臓系ともに未成熟であるため、この時期の運動感覚の習得は成人のトレーニングスタイルであってはならず、いかに遊びの中で、楽しく身につけるかが重要となる。本実習では幼少期において獲得されるべき基本的運動感覚についての基礎知識の習得と、それらを幼児および児童に楽しく実践させるための指導法について系統的に学習することを目的とする。			◎	○
解剖学	2	1	春	テーマ:人体解剖学 目標:人体の構造と機能を理解し、各専門科目を学ぶための基礎とする。			◎	
生理学	2	1	秋	健康科学の根幹である生理学から人体の生きている仕組みを学ぶ。そして生体の在り方が多くのバランスの上に成り立つことを理解することができる。				
運動栄養学	2	2	春	栄養学の基礎として、各栄養成分の理解と、消化吸収のメカニズムについて理解し、実生活での食事と栄養の関係について配慮できるようになる。また運動のエネルギー供給について理解し、健康づくりやスポーツ活動における効果的な食事について配慮できるようになる。			◎	
身体運動学	2	2	秋	身体運動を支える、体の機能を、生理学的、解剖学的を基本として学び、運動の理論的実践指導が出来るようになる。	○	○	◎	
リハビリテーション医学	2	3	春	運動器のリハビリテーションを中止して、「リハビリテーションの基本的考え方」、「リハビリテーションにおける診断と評価」「リハビリテーションにおける治療」をテーマとし、それらについて社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に出題される問題に対応できるレベルを到達目標とするだけでなく、スポーツ指導者においては実際の現場で困らないだけの力をつけることを目標とする。			◎	
内科学一般	2	3	春	健康領域に従事する者として心得ておかなければならない医学一般並びに老人医療に関する知識を幅広く理解すること。ならびに他の医療従事者とも緊密にチームワークを作る為にも医学や看護などの基礎的知識を豊かにすること。これらのことを学び、理解することで、健康領域の現場に出た際に他の医療従事者と共通理解の上で円滑に業務を遂行することができる。	◎			
東洋医学概論	2	1	春	東洋医学の歴史は如何に誕生したのか、日本での変遷及び中国への影響、東洋医学の特徴、基本理念、古代哲学思想と医学との関連などを理解できるようになる。	○	△		
経絡鍼灸学	2	2	秋	本講義では東洋医学における重要な「経絡鍼灸学」をテーマとして、それについて福祉、健康とスポーツ領域で活用できるレベルを到達目標とする。	○	△		
東洋医学演習	2	2	秋	針灸、整体刺激及びトレーニングによる筋強度への影響をテーマとする。学生はスポーツ選手に広く応用されている東洋医学的手法を習得することで、よくみかける肩こり、腰痛への影響を学ぶことができる。				
発育発達	2	3	春	成人期以降の体の変化を総合的、臓器別に学び、老化のメカニズムを理解することによって、高齢者等の健康に配慮できるようになるとともに、安全で効果的な運動指導ができるようになる。		○	◎	
救急処置	2	3	春	「救急処置の基本と実際」、「スポーツ障害の現状と対策」をテーマとし、アスリートやスポーツ指導者として、学んだ知識を実際のスポーツ現場での応急処置やスポーツ障害の予防に役立てることを目標とする。		○	◎	
運動生理学Ⅰ	2	2	春	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。また、身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。	◎			

総合

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
総合	運動生理学Ⅱ	2	2	秋	動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。また、身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。	◎			
	レクリエーション	2	2	春	「出会いはコミュニケーション」～自ら楽しむ、共に楽しむ～をテーマに人とひとの交流を深めます。 レクリエーションは、コミュニケーションを深める有効手段の一つです。レクリエーション活動をおとして、自らのコミュニケーション能力を高めます。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域のつながりを取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者・障害者福祉施設、スポーツ・健康づくりに関する職場、地域社会、学校教育現場など即戦力となる人材を育てます。			◎	○
	アダプテッド・スポーツ	2	2	秋	アダプテッド・スポーツとは、1人1人の発達状況や身体条件に適合させたスポーツのことをいう。特に、障がいを持つ者の身体的・精神的障がいの種類や程度に合わせてルールや用具を適合させることによって、スポーツ活動を実施することができるようになる。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって障がいを悪化させてしまう。本講義では、障がいの者のスポーツ活動について、障がいの関係特性について理解を深めるとともに正しく理解し、対象者に適したスポーツ活動の理解及び適切な指導が出来るよう学習する。	○	◎	○	△
教職関連科目	教職論	2	1	秋	教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	◎	◎		◎
	教育原論	2	1	春	教育理念並びに教育に関する歴史及び思想を通じて、学校教育の意義や境界問題などを理解したうえで、これからの教育のあり方について考えを持ち、教員になるための意欲を高め、実践的指導力の基盤づくりを行う	◎	◎		○
	教育心理学	2	2	春	教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識及びその活用を学ぶとともに児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につけ、児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与する教育心理学的知識を身につける	◎	◎		◎
	教育行政学	2	3	秋	教育行政の存在理由やその意義、その課題を理解するとともに論争的な事項について、法規等を根拠としながら論じられる能力を身につけるとともに、それらの知識を活かして学校の現場で課題に対処するための基礎的な力量を高める	◎	◎		○
	教育課程論	1	2	春	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する。また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。	◎	◎		◎
	保健体育科教育法Ⅰ	2	2	春	本講義のテーマは体育教師の専門的力量育成のための保健体育科教育にかかわる基礎的事項について理解することである。	◎	◎	◎	◎
	保健体育科教育法Ⅱ	2	2	秋	中学校保健体育科において扱われる体育分野7領域のうちの5領域と保健領域について、それぞれの授業づくりで重要なポイントを理解し、授業計画を作成できるようにすることを目標とする。	◎	◎	◎	◎
	保健体育科教育法Ⅲ	2	3	春	実技種目の実践指導法の習得 中学校保健体育において扱われる体育分野の4領域の実技について「できる」「わかる」「教えることができる」能力を身につける。	◎	◎	◎	◎
	保健体育科教育法Ⅳ	2	3	秋	授業改善のための体育授業を分析し、評価することから自己の授業及び授業能力を確認することを目標として学習する。	◎	◎	◎	◎
	道徳教育の理論と方法	2	3	秋	道徳教育とは何か、道徳教育の目標とは何かといった基礎的な事項を身につけるとともに学習指導案の作成や模擬授業を通じて実践的指導力を身につける。また、学生自らが、他者との対話や自らに対する問いかけを通して考えを深め、自らの道徳的実践力を培う	◎			◎
	特別活動の理論と方法	2	2	春	今日の教育の現状と課題から、戦後の特別活動の変遷や現在の学習指導要領に定められた中学校・高等学校での目標や内容について考察し、特別活動の意義や役割、その重要性について考える。そのうえで、指導する際に配慮すべき点や要点などについて考え、自主的実践的な態度の育成について考察していく。また、模擬授業を通して、特別活動の基本的指導技術を獲得するための視点を体感し理解する。	◎	◎	◎	◎
	教育の方法と技術	2	3	秋	子どもの興味関心を引きつけ、学習のねらいを達成するためには情報機器、学習ソフト、教育メディアの活用を含めた多様な指導方法・技術を駆使して授業を展開することが必要であることを理解し、それを実際に授業実践(模擬授業)に生かすことができる力と活用しようとする意欲を身につける。また、授業を設計し、実践し、評価し、改善を通して学習のねらいを効率的に達成するために、より適切で有効な指導の方法と技術を習得することができる。あわせて、教育におけるメディアリテラシーの育成の重要性に気づき、メディアの特性についての理解を深める。	◎	◎	◎	◎
	生徒・進路指導論	2	3	秋	生徒指導の目標や生徒指導の機能をしっかり捉え、(1)生徒指導の意義を理解する、(2)問題行動について理解し、その対応法が分かる、(3)生徒理解のための方法と技術が分かる、(4)進路指導とキャリア教育について理解し、生徒指導との関連をつかむ、(5)学校における生徒指導体制及び地域・家庭との連携の意義を理解する、ことをねらいとしている。	◎	◎		◎
	教育相談の基礎	2	1	春	教育相談に必要な発達障害の特徴や問題行動の理解と支援をテーマとする。教育相談をする上で踏まえておこなうべき点や必要となる知識・技術についての理解を深め、技術を高めるとともに、自身の教師としての適性などについて理解を深める。	◎	◎		◎
	教育実習指導	1	3	秋	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、学習指導要領の作成及び評価を受けたうえで改善を行い、模擬授業の実施及びその評価を行うことで教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を目標とする。	◎	◎	◎	◎
教育実習	4	4	通年	学校における教育実習を通じて、実際の学習指導、生徒指導を体験し、振り返ることを通じて教師の職務の在り方及び必要となる知識・技術についての理解を深め、技術を高めるとともに、自身の教師としての適性などについて理解を深める	◎	◎	◎	◎	
教職実践演習(中・高)	2	4	秋	学校教育・教育行政の現場の実際を当事者の話を聞くことで教育の現状とこれからについての理解を深める。またこれまでの学習状況を振り返ることを通じて、自身の教職に対する意欲などを確認するとともに教師としてふさわしい資質とは何かを考える	◎	◎	◎	◎	
介護等体験の研究	1	2	秋	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。	◎	◎		◎	
演習・卒業論文	基礎演習Ⅰ	2	1	春	基本的な「コミュニケーションスキルの向上」をテーマに、大学生としての基本的素養を習得し、大学における学業生活をより積極的効果的に行なえる能力を身につけることを到達目標とする。	○	◎	◎	◎
	基礎演習Ⅱ	2	1	秋	前期学習した「コミュニケーションスキル」をベースに「プレゼンテーションスキルの向上」をテーマに、プレゼンテーション能力を身につけることが出来る。2年次から始まる「演習」のための準備科目でもある。	○	◎	◎	◎
	演習Ⅰ	2	2	春	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を学び、論理的に物事を考えることができるようになる。	○	◎	◎	◎
	演習Ⅱ	2	2	秋	本演習では、「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。	○	◎	◎	◎
	演習Ⅲ	2	3	春	現代社会における健康問題や能力向上などにおいて、これまでの運動のもつ役割や運動に対する認識、方法論では、多くの課題や問題を解決することが難しくなってきた。現代社会・生活環境は、これまでのやりかたでは解決困難な問題を突きつけてきているとも言える。そこで、これまでの理論と方法論に立脚しつつも、新たに現代において研究、開発されてきている理論と方法論、特に本講義では高岡英夫創始による運動科学の内容を概観しつつ、これらの問題を理解・解明する足がかりを得る。	○	◎	◎	◎
演習Ⅳ	2	3	秋	現代の社会において、運動のもつ役割や、運動に対する認識、関わり方は様々で、かつ多くの問題を抱えている。また、現代社会・生活環境は、そこに暮らしている我々の体力や運動生活に、多大な影響を及ぼしている。これらの点に関して、体力・健康問題の視点をベースにしてとらえることを学び、多角的な面から考察できるようになる。	○	◎	◎	◎	

授業科目		単位数	配当年次	履修期	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4
演習・卒業論文	演習Ⅴ	2	4	春	現代の社会において、運動のもつ役割や、運動に対する認識、関わり方は様々で、かつ多くの問題を抱えている。また、現代社会・生活環境は、そこに暮らしている我々の体力や運動生活に、多大な影響を及ぼしている。これらの点に関して、体力・健康問題の視点をベースにして、多角的な面から、研究していく。	○	◎	◎	◎
	演習Ⅵ	2	4	秋	これまで、実に多くの学習方法や指導方法が研究・実践されてきた。またその分野も、学問的な認識を扱う分野に始まり、職業スキルやパフォーマンス、芸術におけるスキルやパフォーマンス、そして運動・スポーツのスキルやパフォーマンスなど、多岐にわたる。しかし、総じてそれは一言で言えば、目標達成ということになる。近年、コーチングとして新たな目標達成プログラムが提起され、多くの分野で大きな成果をあげている。本演習では、コーチングの理論と方法を理解し、それぞれの目標達成をするためのスキルを習得する。	○	◎	◎	◎
	卒業論文	4	4	通年	健康、スポーツ、福祉などに関連した内容で、自らが選択したテーマについて、初歩の科学的な手順にのっとり、論文を作成し、大学での学習のまとめとする。 また、この過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てから諸々の仕事に対応できるようになる。	○	◎	◎	◎